

国語の力、その伸ばし方

2017年11月

花まる学習会・スクールFC 仁木 耕平

1 教科としての国語 … よくいただくご相談から

- ①読解って、早くからやらせた方がいいですか？
- ②本を全然読みません／年齢に比べると、幼い感じの本しか読みません
- ③幼すぎて、物語文が苦手です／論説文への抵抗感が強くて…
- ④算数に比べると、どうしても国語が苦手です
- ⑤音読がつかえつかえで、聞いていて不安です
- ⑥言葉を全然知りません
- ⑦人の話を聞かなくて…／対話が成立しません
- ⑧字が汚いです／どうしても雑になってしまいます
- ⑨漢字が苦手です
- ⑩作文が書けません／意見記述が苦手です
- ⑪「これ、なんて読むの？」「これ、どういう意味？」と質問されたとき、どうすればいいですか
- ⑫定期テストの国語、全然点数がとれません

2. 豊かに生きるための国語 … 言葉をめぐる状況と、乗り越える必要があること

- ①大人として生きる中で、「ことば」をめぐって困ったこと／当たった壁

- ②今、ことばについて思うこと

●相対主義…「物事の多面性／どちらにも事情はあるよね」

- ① カール・ポパー「寛容のパラドクス」

例)

- ・クラスで、いろいろな子を相手に暴言を吐き、暴力をふるう小4男子・4人組。
(登下校時のからかい、物を取り上げて壊す、つばを吐きかける…)
- ・複数の保護者から学校にクレームが入る。
→学校から4人組の保護者に状況を伝達すると、そのうちの2人の親が学校に乗り込んできた。
「いろいろな人や先生たちからそういう目で見られて…これは偏見です！」
「うちの子がかわいそう。差別されているのはうちの方です」

★寛容な社会は、不寛容も許容すべきか？→

(男女差別・人種による差別 … 差別的な言葉を言う自由もあるはず)

★何が原因なのか

- ② 言葉の定義が簡単にゆらいでしまう (用法や書き順のゆらぎなど、それに比べれば些細なこと)

- ・転じて…言い換えの「横行」

●仮説：日本語の弱点 … 真理に向かって議論をすることの困難さ (遠さ)

- ①敬語…関係性が強く織り込まれている

- ・部下に敬語を使わない上司

- ②言葉に感情がべったり貼りつきがち (含意をさせることの容易さ／解釈の余地)

- ・そんな言い方しなくても…

- ・婉曲な言い方に込められた悪意 (配慮せよ、という意思表示)

③日本語を話す人が、日本にしかいないこと

・自分たちのありようを相対化しづらい

(翻訳された情報にしか触れられない人の多さ)

→とはいえ、ほとんどの人が「母語で思考をする」ということから逃れられない

●「家庭での良質な会話」以外に、大人ができること … 場を作る

①ブッククラブ (読書会)

・「主体的な読み手を育てる」ことを目的にしたワークショップ

・文章を読み、自分で問いを立てる

・立てた問いの中から、もっとも「太った質問」を選び、話し合う

・絶対的な答えを受け取る、読み取ることがゴールでは全くない。

読んだことを出発点に、自分ごととして考えることが「読むこと」であるという、読書観の転換

★まず、大人がおもしろさを体感するとよい (例: 猫町倶楽部など)

★主催する側に回ってみる

★子どもの場合、特に選書が大事 (想像を広げられて、楽しい!でも、深い…もので)

②作家の時間

・「主体的な書き手を育てる」ことを目的にしたワークショップ

・本物の作家になり切る

・2か月1クールで、1作品を出版する

・ファンレターと振り返り

③ビブリオバトル (おすすめブックトークバトル)

・「おすすめ本」を1人3分 (中学生以上は5分) でみんなにプレゼン

・時間は使い切る、原稿や資料は見ずに話す、必ず勝敗を決める (優勝を決める) のがルール

・「本当に好きなもの、いいと思っているもの」については、言葉がどんどん湧き上がってくるウソのない「伝えたさ」がある。

・多様性にふれる…さまざまな本があること、さまざまな好みや価値観があること

・中3の実践

・小4の実践

④低学年にできること

・読み聞かせ (高学年もあり!アンソロジーや短編がおすすめ)

・言葉であそぶ、文字に親しむ

資料①

仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

オセアニアに広がっているのは()である。

A ヒンドゥー教

B キリスト教

C イスラム教

D 仏教

	公立中学校	私立中学校 (中学)	公立高校
A	0%	0%	0%
B	%	%	%
C	%	%	%
D	%	%	1%

出典: 東京書籍株式会社 中学校社会教科書『新しい社会地理』56p

資料② 龍井・強弁の類型 … 「こし餡が好きです」に対して

発話者の悪意への歪曲

つまり粒あんしか売っていないような店は、潰れればいいということですよ。

本人以外にとっては不必要な立証の要求

あなたの言う「こし餡」が実在するということを、まず証明してもらえませんか。本当にあるならばの話ですが。

劣等感にもとづく解釈

あんこの違いが分かるような所得層の方は、違いがわからない私たちみたいな庶民を見下してるんですよ。

無意味な比較

そもそも、こし餡より白米の方が必要ですよ。

過剰な形容

粒あん好きの私の前でこし餡が好きなんて言い放つ無神経さに、心底寒気がしました。

不毛な一貫性の要求

粒あんよりこし餡がいいと主張するなら、小粒納豆よりひきわり納豆がいいとも主張するべきでは?

資料③

こうして私たちは、「善」の意味が短期的に変わっていく社会のなかに身をおくようになった。主導権を失えば、昨日の善は今日の悪になる。そしてそれは共有された世界が失われた時代の必然的な結果であった。

善悪は、もともとは、共有された社会がつくりだす共有された規範であり、人間がつくりだすものというより、共有された世界がつくりだすものである。(中略)そしてこの共有された善悪の世界を近代社会が解体し、最終的には善悪は個人の判断へと分解していったのである。

だがそのとき、多様な善悪の基準がうまれたわけではなかった。たえず一時の主導権を握ったものが自己を善として振る舞い、多数派は自己防衛的にその善に従うことによって、それがあたかも善であるかのごとく力を発揮する時代がつくられたのである。

この構造が扇動屋の時代をつくりだした。主導権を握るための扇動が何よりも重要になったのである。そして有効な扇動のシナリオを書く企画会社の役割が大きくなった。何が善で何が悪かではない。どのように扇動したら主導権がとれるか、である。その結果主導権をとるために扇動した内容が、主導権を確立したあとは善として主張されることになる。

こうして現代社会は、善が不在ともいえる社会をつくりだしてしまったのである。善が主導権の変更によってたえず変容する時代、といってもよい。ゆえに善の側にいようとするなら、私たちはたえず主導権をとった側に、多数派に身をおかねばならなくなった。扇動によって生まれた多数派の側に身をおくようになったのである。

(中略)

まるで共同幻想のように何かが生まれ、また新しい共同幻想が発生してくる。そして私たちは共同幻想のなかに身を置こうとする。とするとすべては失われていることにならないか。ゆだねること、同調することによって自己を失われた存在へと落とし込んでいく。そのことによって自由に生きる自己を再確立する。それが私たちの時代に与えられた生き方である。

ただし今日とは、このような生き方が限界にきた時代なのだと思う。多数派の側にいれば、すなわち主導権を握った者たちがつくりだす「善」に同調していれば、自己を防衛できる時代は終わろうとしている。「普通であること」によって自分を守ることができない時代がはじまった。

(中略)

しかもその変化が短期間でおこっている。とすると私たちは「悪」の時代に生きていると言った方がよいのかもしれない。なぜなら変化に対応する時間量を保証しない変動は、人間にとっても自然にとっても「悪」でしかないからである。

すべてを失ったがゆえに自由である時代が終わり、「悪」に翻弄される時代がいま私たちの前にはある。

砧中学校 PTA 会員の皆様

世田谷区立砧中学校 PTA 会長 西村 幸子
砧中学校・砧・明正・山野小学校
砧の学び舎 4校合同家庭教育学級委員会
砧中学校 家庭教育学級委員長 松井 悦子

砧の学び舎 第8回4校合同家庭教育学級 開催報告
国語の力、その伸ばし方
～その時だからできること～

本年も残すところあとわずかになってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
11月7日(火)に成城ホールにて『砧の学び舎』家庭教育学級を開催いたしました。総勢281名の方にご出席
いただき、大盛況で終えることができました。スタッフ一同心より感謝申し上げます。今回は仁木耕平先生を
お招きし、「国語の力 その伸ばし方 ～その時だからできること～」をテーマに講演していただきました。
その内容とご来賓の皆様のごあいさつを紹介させていただきます。

開催日 : 平成29年11月7日(火)
開催場所 : 成城ホール
講師 : 仁木 耕平 (にき こうへい) 先生
プロフィール :
1977年埼玉県生まれ、スクールFC 教務部 部長
専門教科は国語。読むため、解くためのポイントを徹底的に
言語化・作業化しておこなわれる授業は、論理的かつエネルギーギッシュ。
実績に裏付けられた授業力・進路指導力とあたたかい人柄で、
保護者や生徒たちからも絶大な信頼を得ている。
現在も教材開発の統括をしつつ、授業の第一線でバリバリ活躍中。



参加者数

砧中学校 23名 砧小学校 34名 明正小学校 90名 山野小学校 84名 来賓 12名 委員 38名 合計 281名

ご来賓の方々のごあいさつ

<砧中学校 宇野 亮 校長先生>

今日は国語の力という内容でお話を聞けるということで楽しみにしてまいりました。先日、別の講演で、言葉にはすれがあるためにトラブルが起こるといった話を聞いてきました。言葉は、自分の気持ちを伝える大事なものです。その力を授業の中で、生活の中で身につけていく必要があります。今、子どもたちにとって国語は大事なものだと思っています。皆様も自分のお子様のことを考えながら聞いていただけたらなと思います。

<砧中学校PTA会長 西村 幸子 様>

私には中学生の他に高校生の子どものもいますが、皆さんは最近、お子様との会話をどのように感じていらっしゃるのでしょうか。今の子どもたちは、大人から見ると難しい独特な言葉遣いをします。聞いていても何について話しているのか、全く分からないこともあります。今日は仁木先生のお話を楽しみに聞かせていただき、子どもたちの国語の力を伸ばすことを保護者として応援していけたらいいなと思っています。仁木先生、どうかよろしく願いいたします。

<教育委員会 社会教育指導員 土橋 悟 様>

仁木先生、本日はありがとうございました。国語について貴重なお話をいただきました。世田谷区も教科「日本語」をはじめ、国語には力を入れています。国語は一生使い続けていく言葉です。大人の国語の力が高まると子どもの力も高まっていきます。そのためにも、先生のお話を参考にしながら、子どもだけではなく、大人もきちっと国語の力を高めていかなければならないと思いました。今日は本当にありがとうございました。

参加者アンケート報告

アンケート提出数 231 枚

1. 今日の講演会はいかがでしたか。

- ① 大変よかった 151 名
- ② よかった 65 名
- ③ よくなかった 3 名
- ④ どちらともいえない 5 名

2. 講演時間はいかがでしたか。

- ① 長かった 2 名
- ② ちょうどよい 102 名
- ③ 短かった 123 名

3. 今回の企画内容やイベント運営などについてのご意見、ご感想など。(一部紹介)

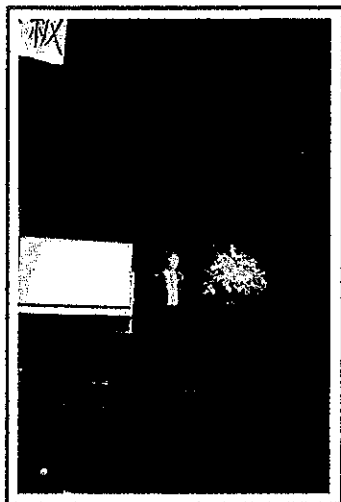
- ・とても分かりやすいお話でした。家庭内でできることが多く親が少しの時間を作るだけでも子どももやる気になれるのだと思いました。
- ・勉強のやり方よりも親子の対話接し方が大切ということに気付かされました。高学年ですがさっそく読み聞かせをしたいと思います。楽しいお話ありがとうございました。
- ・子どもの苦手は子供が一番苦しいという言葉が、心に残りました。励ます、自信をつけてあげるなど、親にしかできないこと、がんばります。
- ・とても分かり易い講義でした。国語の伸ばし方、好きになる方法は作家になったり討論したりと様々なやり方があると知りました。実践できることを取り組んでいこうと思いました。
- ・パワフルな先生のお話にひきこまれました。
- ・子どもに考える力をつけるために、子どもにまず考えさせる事が大切だと再認識しました。「～はどう思う？」と聞き返していきたいと思います。
- ・時間が短くて最後まで聞けなかったのが少し残念でした。
- ・子どものできないところよりもできるところをほめてあげることが大事という事など、子どもに苦手意識を持たせずにいかに楽しく学ばせるかという事が大切と教えていただきました。国語の苦手意識に拍車をかけていたことを反省しました。もう少し見守って寄り添っていききたいと思います。
- ・国語は、勉強としても必要ですが人生を豊かにしてくれるものとお聞きし、本当に大切なものだ改めて思いました。つつい目先の教材をやらせるのに必死になってしまいますが、もっと広い視野で国語力を高めてあげたいと思いました。
- ・中学の保護者向けが少なかった。小学生のうちにも伺いたかったです。
- ・国語力をつけるためのサポートの仕方が、タイプ別 高学年低学年、年齢別に具体的に知ることができ分かりやすかったです。

現場で日々教育に携わっていらっしゃる仁木先生ならではの、具体的なエピソードが盛りだくさんで楽しい講演会となりました。国語力、読解力アップのための実践的なアドバイスもあり、気づきとなることも多かったのではないのでしょうか。今後の子育ての参考になれば幸いです。

ご参加くださった皆様ありがとうございました。
家庭教育学級委員一同

⑦人の話を聞かなくて…/対話が成立しません

低学年は、まだ自分中心の世界である為、仕方がないです。投げかけに答えてくれた時、喜んであげる事が大切だと思います。高学年になって他者性は伸びてくるものです。読解は相手に合わせて考える作業となる為、他者性が伸びれば読解力も伸びていきます。この時点で読解の技術を磨いていけば良いです。



⑧字が汚いです/どうしても雑になってしまいます

性格、思考の問題です。字が汚い事を何度も伝えることは大切ですが、すぐに変わるものではありません。毎回注意するのでは嫌になってしまう為、「テストのときは綺麗に書こう」など、落としどころを見つけて伝えるとよいでしょう。

⑨漢字が苦手です

2パターン理由があります。

・誘惑に弱く、コツコツやるのが苦手なタイプ

やればできる為、大人の見ている前で、漢字を勉強する時間を確保して下さい。

・苦手タイプ

大人は皆、漢字はやればできると思っていますが、本当に苦手な子どももいます。その様なお子さんは、当て字が多いです。苦手だなと感じたら、全力で支えてあげるしかなく、しっかり間違っている点をチェックし、指摘することが大切です。

⑩作文が書けません/意見記述が苦手です

自由作文、生活作文が書けない、イコール苦手ということではありません。対話をしながら、書く内容を引き出してあげると良いと思います。作文が上手になる為には、書いてみたい、書くのが好き、これを相手に伝えたいという気持ちが大切ですので、親にできることは、書いた作文を認めてあげること、意をくみ取り言葉にしてあげることです。低学年期には、書いた作文によく反応し、書く喜びを感じさせることが大切です。

⑪「これなんて読むの?」「これ、どういう意味?」と質問されたときどうすればいいか?

子どもから質問された時、まず自分で考えさせる(自分の力で類推する)というステップを踏ませることが大切です。そのステップを挟んだ後に、辞書を引いても良いですし、教えても良いです。

⑫定期テストの国語で、全然点数がとれません

学校では、教えたことを確認するテストが多い為、授業で聞いた内容をきちんと情報収集出来ているかチェックすることが大切です。

2. 豊かに生きるための国語

教科としての「国語」の中で問題に感じていることは、議論する力が伸ばせていないということです。「家庭での良質な会話」がとても大切ですが、それ以外に大人ができることは国語に触れる「場」を作ってあげることです。いくつかの「場」を紹介します。

① ブッククラブ(読書会)

主体的な読み手を育てる事を目的としたワークショップ。

ある1冊の本について質問をたてる。面白そうな質問について議論する。

② 作家の時間

本物の作家に成りきる。自分で題材を考え、文章を書き、2か月1クールで1つの作品を完成させ締め切りを守り出版する、という取り組み。続けている子供たちの様子を見てみると非常に書く力が伸びている。

③ ビブリオバトル

お薦めの本を1人3分(中学生は5分)使ってみんなでプレゼンする。

時間は使い切る。原稿や資料は見ずに話す。必ず勝敗を決める。

④ 低学年期にできる事

読み聞かせ(高学年にも効果あり!アンソロジーや短編がおすすめ)言葉で遊ぶ、文字に親しむ。

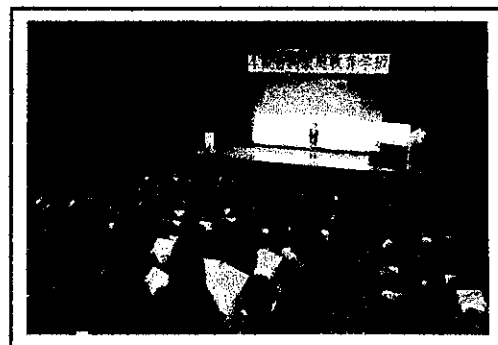


「場」を作ること「機会」を作ること、書くことが好きになる。

講演後のロビーはたくさんの保護者から仁木先生への質問でしばらく賑わっており、大盛況で終えることができました。

講演内容の紹介

仁木先生より事前にご用意いただいた資料を配布し、資料に沿って「国語の力の伸ばし方」を具体的かつ実践的にわかりやすくお話ししてくださいました。



1 教科としての国語

保護者から多く質問がある項目について順にお話がありました。

① 読解力って、早くやらせた方がいいですか？

低学年のうちから読解をする必要はないと思います。文章読解とは、黙読を一人ですることが求められ、客観的に読み取って答え、相手に合わせることです。算数のように解けると嬉しい訳ではないので、基本的に子どもが好きな作業ではないのです。5、6年生になって客観性が芽生え、大人と一緒にやっていく中で面白さが出てくるのです。

黙読ができず、一人で読む力が不十分だと、混乱するだけで読めなくて自信を無くしてしまいます。一人で読めるようになるには、準備が必要です。5年生でも一人読みが不十分な子は、読む力をつけます。言葉を知らなければ、読んである素材の中で、言葉を知っていくことに力を入れていきます。

では語彙力をどう身につけていくのか？良い文章に触れさせ、家庭の大人の会話の中で、言葉を身につけさせていきます。子どもは、その言葉が使われている状況の中でしか、言葉が増えません。どういう状況で使われているのかということに沢山触れていくことが重要です。

また、語彙力とは初めての言葉の意味を類推する力も含まれます。初めての言葉の前後の文脈と字の意味から想像して、なんとなく予想して、合っているなど心の中で経て、自分の心の中に入れていきます。

低学年で大事なものは、『語彙力』『新しい文章で出会った言葉を類推する力』『いろいろな文章の型に触れておく』です。この3つが十分でないのに、読解をするのは難しいです。

② 本を全然読みません/年齢にくらべると、幼い感じの本しか読みません

文章の型に触れるためにも、低学年、低学年以外も嫌がらなければ、読み聞かせが有効です。家族で本を読む時間を作るのもいいでしょう。読み聞かせの良い点は、親が本をセレクト出来る点です。オムニバス形式の本がお勧めです。本人が読む場合は、本人が好きな本を選び、例え読まなくても深追いしないことです。

③ 幼すぎて、物語文が苦手です/論説文への抵抗感が強くて…

男の子は、物語が苦手です、論説文の方が好きです。論理思考が強いので好きではないですが、後々物語が解けるようになります。

女の子は、男の子と逆です。ただし、女の子で、国語、論説文が苦手な子は、粘り強く指導者が関わるようにしないとなりません。受験に限って言えば、自信を失わないように、励まし、大丈夫と言い続ける必要があります。国語が苦手な女の子は理系っぽい子が多いので、男の子と同様の経過をたどることがあるので、あまり心配しないようにしてください。

④ 算数に比べると、どうしても国語が苦手です

③と④で共通なのは、苦手意識です。なぜ、苦手と思うのか？算数ができるので、それと比べてしまい苦手とってしまうのです。

子どもが、『国語苦手なのかな？』と言うときは、『僕そうかな？』『にがてなのかな？』と反応を求めているので、例えそう思っても、『そんなことないよ』と言い切ってあげることが大切です。できるようになったとの声掛けは必要で、実際にできるようになっていきます。

⑤音読がつかえつかえで、聞いていて不安です

音読では、内容は頭に入っていないので、音読後の質問は無理です。音読の効果は、目の動かし方のトレーニングで、一分間に300文字、400文字読めると良いです。なかなか難しいので、ご自分でやってみて、300文字か、400文字か決めてあげてください。

なお、音読ではこどもの語彙力が足りない、漢字の力が足りないなどの状況が把握できます。

⑥言葉を全然知りません

低学年は、今まで話してきました。高学年以上は、意識して語彙をストックしていく必要があります。ノートに語彙を貯める言葉ノートを作るのもいいです。例えば試験など目的がないと続けることが難しいので、学校の先生や、塾の先生に子どもに勧めてもらうようお願いしましょう。

(言葉ノート作成のすすめ…日付・通し番号・言葉・読み仮名・意味・例文をノートに書き溜めていく)